

上手な言葉の使い方。
日本人の言葉使いのエチケット。

コレスニウ ロマン

はじめに「最近の若い人は言葉づかいを知らない」とか「礼儀作法を心得ていない」といふ声をよく耳にする。しかし、乱暴な言葉づかいをしていたり、間違った敬語を使ったりするのは若い人に限ったことではないだろう。社会の中で、お互いの人間関係をスムーズにするには、社会人としてのマナーを身につけることが必要だ。交際の場合が広範囲に及ぶにつれて、公式の場で話をする機会が多くある。そういうときに日本語を勉強する外国入でも日本語でも口下手だとか、話をするのが苦手だとかいうのを避けるわけにはいかない。むしろ、積極的に友好を深めようという機会と受け止めて、個性を発揮し、それぞれの場に合わせた挨拶を心がけた方がいいものだ。

上手な話し方・上手な挨拶
社会生活を営む人間は、実に多種多様な人間関係に取りまかれています。それは、時・相手・場所の三つの要素が複雑に絡み合っていて、様々な状況をつくります。それだから「何と挨拶したらいいのかわからない」と戸惑ってしまうことがよくある。人間関係は円滑に運ぶことを望んでいる。その反面、素直な無造作な言葉を使っているのが実情だろう。言葉は自己紹介の大切な役割を持っているが、正しい使い方をしないと、その役目を果たせられない。上手な話し方・挨拶の仕方を身につけるための第一歩は、自分の言葉に耳を傾けてみる。この影響を与えるかを考慮して、自分が何を言ったのか、言葉が口をついて出て、しやべったあとで自分が何を言ったのか、第二に、自分の立場をよくわきまえておくことが大切だ。もうそればかりでは、自分が話すべきかどうか、また話していい内容かどうか、などがはっきりとわかっていく。その上で、相手に不快な思いをさせないよう、おのずからわかっていくだろう。時・相手・場所の三つの要素をふまえた話し方・挨拶が基本といえる。

